

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成23年9月22日(2011.9.22)

【公開番号】特開2010-96748(P2010-96748A)

【公開日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-174692(P2009-174692)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/53	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/53	Z N A Q
C 1 2 Q	1/02	
C 1 2 Q	1/68	A
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/50	Z
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 P	37/08	
A 6 1 P	17/02	
C 1 2 N	15/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月9日(2011.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

生体試料におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量を測定することを含む、アトピー性皮膚炎の検出方法。

【請求項2】

(i)被験者由来の生体試料におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量と、(ii)正常生体試料におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量との比較を行うことを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

(i)被験者由来の生体試料におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量が(ii)正常生体試料におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量よりも高いときに、アトピー性皮膚炎である、またはアトピー性皮

膚炎が疑われると判断することを含む、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

ペリオスチンを産生する能力を有する細胞を候補物質の存在下で培養した場合におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量を測定することを含む、アトピー性皮膚炎の予防・治療剤のスクリーニング方法。

【請求項 5】

(i)ペリオスチンを産生する能力を有する細胞を候補物質の存在下で培養した場合におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量と、(ii)ペリオスチンを産生する能力を有する細胞を候補物質の非存在下で培養した場合におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量との比較を行うことを含む、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

(i)ペリオスチンを産生する能力を有する細胞を候補物質の存在下で培養した場合におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量が(ii)ペリオスチンを産生する能力を有する細胞を候補物質の非存在下で培養した場合におけるペリオスチン遺伝子の発現レベルまたはペリオスチンタンパク質量よりも低いときに、候補物質を選択することを含む、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

測定が免疫測定法によるものである、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

生体試料が皮膚組織である、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 9】

インテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとを、候補物質の存在下で接触させた場合における、インテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの結合量、thymic stromal lymphopoietin 産生量または皮膚角化細胞の分化・増殖活性を測定することを含む、アトピー性皮膚炎の予防・治療剤のスクリーニング方法。

【請求項 10】

(i)候補物質の存在下でインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとを接触させた場合におけるインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの結合量または thymic stromal lymphopoietin 産生量と、(ii)候補物質の非存在下でインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとを接触させた場合におけるインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの結合量または thymic stromal lymphopoietin 産生量との比較を行うことを含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

(i)被検物質の存在下でインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとを接触させた場合におけるインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの結合量または thymic stromal lymphopoietin 産生量が、(ii)被検物質の非存在下でインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとを接触させた場合におけるインテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの結合量または thymic stromal lymphopoietin 産生量よりも低いときに、候補物質を選択することを含む、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

インテグリン  $\alpha/\beta_3$  とペリオスチンとの接触がインテグリン  $\alpha/\beta_3$  を発現する細胞とペリオスチンとの接触である、請求項 9 ~ 11 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 13】

インテグリン  $\alpha/\beta_3$  を発現する細胞が、インテグリン  $\alpha/\beta_3$  を細胞表面に発現する細胞である、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

インテグリン  $\alpha/\beta_3$  を発現する細胞が内因性インテグリン  $\alpha/\beta_3$  発現細胞である、請求項 12 または 13 に記載の方法。

【請求項 15】

内因性インテグリン  $\alpha/\beta_3$  発現細胞が皮膚角化細胞である、請求項 14 に記載の方法

。

【請求項 1 6】

(i) 候補物質の存在下でインテグリン  $\nu/\nu_3$  とペリオスチンとを接触させた場合における皮膚角化細胞の分化・増殖活性と、(ii) 候補物質の非存在下でインテグリン  $\nu/\nu_3$  とペリオスチンとを接触させた場合における皮膚角化細胞の分化・増殖活性との比較を行うことを含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 1 7】

(i) 被検物質の存在下でインテグリン  $\nu/\nu_3$  とペリオスチンとを接触させた場合における皮膚角化細胞の分化・増殖活性が、(ii) 被検物質の非存在下でインテグリン  $\nu/\nu_3$  とペリオスチンとを接触させた場合における皮膚角化細胞の分化・増殖活性よりも低いとき、候補物質を選択することを含む、請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 8】

(i) ペリオスチンを認識する抗体、(ii) ペリオスチンをコードする遺伝子の塩基配列から設計された、連続する少なくとも 15 塩基のポリヌクレオチドからなるプライマー、および(iii) ペリオスチンをコードする遺伝子の塩基配列から設計された、連続する少なくとも 15 塩基のポリヌクレオチドからなるプローブからなる群から選択される少なくとも 1 つを含有する、アトピー性皮膚炎の検出薬。

【請求項 1 9】

(i) ペリオスチンを認識する抗体、(ii) ペリオスチンをコードする遺伝子の塩基配列から設計された、連続する少なくとも 15 塩基のポリヌクレオチドからなるプライマー、および(iii) ペリオスチンをコードする遺伝子の塩基配列から設計された、連続する少なくとも 15 塩基のポリヌクレオチドからなるプローブからなる群から選択される少なくとも 1 つを含有する、アトピー性皮膚炎の検出用キット。

【請求項 2 0】

(i) ペリオスチンを産生する能力を有する細胞、および / または(ii) インテグリン  $\nu/\nu_3$  を発現する細胞を含む、アトピー性皮膚炎の予防・治療剤のスクリーニング用キット

。

【請求項 2 1】

インテグリン  $\nu/\nu_3$  を発現する細胞が、インテグリン  $\nu/\nu_3$  を細胞表面に発現する細胞である、請求項 2 0 に記載のキット。

【請求項 2 2】

インテグリン  $\nu/\nu_3$  とペリオスチンとの結合を阻害する抗インテグリン  $\nu$  抗体を含む、アトピー性皮膚炎の予防・治療用医薬組成物。